

令和4年度（2022年度） 日貫保育所拠点事業報告

《日貫保育所》

I. 事業総括

《保育方針》

- 一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- 保護者の子育てを支えるよう努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し援助することを目指しました)
- 子どもと子育てにやさしい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI（重要最終目標指標）	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、子ども達が将来、社会の中で自分らしく生きていくことが出来るよう保育を進めてきました。これまでの「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の各領域に沿って、発達に応じたかかわりを行い、養護と教育を一体的に展開してきました。子ども達が安心して過ごせるよう、愛情ある関わりの中で自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を心かけました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終目標として捉え、計画に沿って進めてきました。ただし、非認知能力は本来、日常の保育を通じて育まれるもので、数値化し難い能力であるため、目標値は示しません。

2. 地域社会との関係性強化

KGI（重要最終目標指標）	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を深め、保育所でなければ体験できない貴重な経験の場を子どもたちに提供していこうと考えておりましたが、今年度も新型コロナウイルスの感染により、控えることを余儀なくされました。その状況下においても、地域の方々が気軽に声を掛けてくださり、

改めて保育所と地域の連携の必要性を感じました。数値は掲げておりませんが、コロナ終息を待ち、地域との行事により、文化や伝統を知り体験することの大切さを学び引き続き取り組んでいきたいと思いをします。

3. 生産性の向上

KGI（最重要目標指標）	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.06 千円	1.90 千円
	労働生産性	3,916 千円	3,519 千円

人時生産性達成率 92.6%、労働生産性達成率 89.9%。

予定していた入所時の取止め等もあり、付加価値額は計画値を下回る結果となり、指標値をクリアできませんでした。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

小規模の保育所ですが、職員の連携性を持ち、地域と関わりながら保育所全体で、一人ひとりの子ども達や、その保護者に常に寄り添いながら進めてきました。乳児期の愛着形成の重要な時期に、ゆったりと安心感のある関わりを常に行い、愛情の関わりの中で自己肯定感が培われるような言葉掛けや支援を行いました。また、常に職員間での話し合いを密にし、子どもの過ごしやすい流れを考えてきました。さらに自然ならではの遊びを多く取り入れ、家庭ではできない自然との触れ合いを経験し、豊かな感情、好奇心、思考力、探求心が培われるよう行ってきました。また、食への取り組みや普段の保育の様子等を、お便りは勿論、活動の様子を写真や SNS で発信して情報共有しました。

2. 人材育成への取り組み

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの外部研修が中止となりました。そのため、オンライン研修が増え、オンラインでは多くの職員が同時に視聴することができ、保育の思いを共有できる利点や、ネット配信による研修は配信期間が長く研修計画も立てやすいため、この学びを園内研修で他の職員に伝達することができました。事業所間研修でのマネジメント研修では研修に参加することで職員からの相談や困りごとを聞き、様子を見ながら声を掛け、働きやすい環境を整えていけるよう心掛けました。その中でフィードバックミーティングを積極的に取り入れ、絶対ルールを基盤としてお手本となるような姿を見せ、出来ているかのチェックや指導を行いました。普段から職員とのコミュニケーションを取りながら保育所全体が働きやすい環境を整えて行けるようこれからも真摯に取り組んでまいります。

3. 地域との関係強化への取組み

地域との繋がりを深め、年間を通して年齢別に活動するという計画を立てました。コロナの関係で地域の高齢者の方との交流(老人会)は中止となりましたが、JA 女性部さんとの交流は実施することができました。地域ボランティアによる読み聞かせは年5回、わらべうたは年2回実施しましたが、その他は中止となりました。交流は出来ませんでした。職員と園児での活動を多く取り入れました。栄養士による自園の畑で育った野菜を使ったクッキングや、色々な媒体(絵本等)を通して食への興味関心を促してきました。感染症の制限が徐々に緩和されることから、保育所で出来る体験を実施し、地域の方との交流を試み、地域との繋がりを無くさないよう心掛け、来年度は日貫地域や老人会の皆様と交流を深めてまいります。

4. 生産性向上への取組み

昨年度と同様に、少子化を見据え、職員数を増やさずにより良い保育を実施していくために ICT「はいチーズ」システムを有効に活用して、業務改善に努めてまいりました。事務作業の効率化を図り、間接的業務の負担を減らし、子ども達との直接的な保育時間を確保できるように努めました。

5. 施設整備への取組み

事業計画に掲げた施設整備事業は、実施時期がずれ込んだものもありましたが、すべて実施することができました。新型コロナウイルス拡大防止のための補助金を活用し、感染予防のための物品等を購入し感染防止対策に努めました。

令和4年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者(入所者)状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働 (KPI)
20名	12名	9名	45%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績数	差異
0歳児	2名	2名	－
1歳児	1名	1名	－
2歳児	4名	2名	－2名
3歳児	2名	2名	－
4歳児	1名	1名	－
5歳児	2名	1名	－1名
計	12名	9名	－3名

2. 実施サービス

計画上の事業	実施した内容・成果等
≪養護≫ 生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢に応じた環境を整え、発達年齢に適した支援を行いました。乳児期は一人ひとりとの関わりを大事にし、愛着形成の大切な時期であり、0歳児は同じ職員が関わることで安定して生活できるよう配慮しました。0歳児の生活リズムと1.2歳児の発達段階を踏まえた支援を実施しました。 幼児は一人ひとりの思いを受け止め、生活リズムによる年齢に合った環境を整えました。5歳児は卒園に向けた活動を行い他のクラスは一人ひとりに合った働きかけを行いながら、基本的な生活環境に取り組みました。午睡をしない5歳児と分かれば3, 4歳児は安心した環境で身体を休めることができました。コロナ禍にあり幼児にはマスクの着用の依頼をしました。無理のないところで安心安全に使用し生活改善も整えました。
情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 乳児期の愛着形成の重要な時期にゆったりと安心感のある関わりを常に行ってきました。幼児は愛情ある関わりの中で愛されることを感じ取り、自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を行いました。 子ども一人ひとりに職員が丁寧に関わることで、新入児も早く生活に慣れ、進級児もスムーズに生活することが出来ました。職員も個別支援の必要な子どもに対して丁寧に対応できるよう努めることが出来ました。後半に0歳児の入所が続きましたが、その都度連携を取り、職員間でより丁寧な関わりを

	<p>行うことが出来ました。新型コロナ拡大により他所からの受け入れも難しい環境でしたが、子ども達が不安定にならないように一人ひとりを見つめ肯定的な受け止めを行いました。</p>
<p>《教育》 健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの年齢に適した活動や発達を考慮した運動遊びを行うことで、体力や体幹を身につけられるよう進めました。乳児期は発達に応じた動きや運動を体験出来るような活動を取り入れました。 ・幼児期は様々な運動能力を高めていく活動を取り入れ、意欲的に取り組む姿勢や挑戦する気持ちを持って頑張ろうとする取り組みを大切にしました。その中で年長児は、専門講師による運動遊びを行い、体幹を養うための体操等も取り入れてきました。また、元気なからだ作り計画表に基づきクラス別に基本目標をもって、年間を通して様々な運動遊びを保育に取り入れることに努めました。
<p>食育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食に対する興味や関心を高め、楽しい雰囲気の中で好き嫌いをなく何でも食べられることを進めました。しっかりと体を動かすことで、食欲が増し、食べる意欲を育ててきました。また季節感が感じられるような食材の提供やその食材についての話を聞くことで食べるのが楽しくなるような食事の提供に努めました。 ・乳児期は安心する雰囲気の中で自分で食べる意欲を大切にしてきました。成長に合った机や椅子を考えたことで落ちついて食事が出来るようになりました。 ・幼児期は5歳児を中心に姿勢を意識して食事をする事が出来るようになり成長を感じる事が出来ました。日々の声掛けの繰り返しや、体幹を鍛えることで正しい姿勢を知らせながら今後も引き続き支援を続けていきます。また、新型コロナ対応により声掛けを控え静かな食事中心であったため、楽しい食事の雰囲気になりにくかったことが残念でした。
<p>人間関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大人との深い関わりによる愛着形成を確立し人との繋がりを大切にしました。一人ひとりを認め、前向きな言葉かけや肯定的な関わりを行うことで自己肯定感の確立に努めました。また、自分で考え行動出来るよう子ども主体の遊び

環境	<p>を取り入れ、社会性の確立と自立心の育成に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期は不安な子どもには抱っこなどにより安心を感じられるように努め、幼児期は（5歳児）自分で考え判断出来るような声掛けや配慮を行いました。安心して生活出来る環境作りを工夫し、職員間で情報交換や連携をとり、子ども一人ひとりが自己を発揮できるよう努めました。 ・安心、安全に過ごせる環境や社会事象に興味、関心を持ち、好奇心を高める環境の提供に努めました。安心感に守られながら十分な探索活動を経験し、社会や自然事象に興味、関心を持ち視野が広がっていきけるよう努めました。 ・乳児は行動範囲が広くなり、危険な場面に注意しながら探索行動を見守り、発見に共感しました。 ・幼児は自然事象に興味、関心がもてるよう、調べたり試したり出来るような図鑑や用具等を準備しました。
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・喃語時期から語りかけを通して、周りの人との関わりを深め、言葉への獲得へと繋げていきました。言葉でのやり取りが安心して出来るように保育者は聴くことや待つことを心掛け、一人ひとりに適した援助を行うよう努めました。 ・乳児期の言葉のやりとりに気を付け、言葉の気になる子どもには関係機関と情報共有し連携を取りました。 ・幼児は遊びや活動の中で言葉を使った遊びを実施することで、子供同士が楽しみながら言葉や文字、数への興味関心を引き出す工夫をしました。講師によるわらべうた遊びでは、繰り返しのリズムの言葉遊びにより温かな雰囲気の中模倣しながら楽しむことが出来ました。コロナ拡大により、わらべうた遊びやおはなし会が後半中止となりましたが、応答的な関わりや言葉での伝え合いを大切に、担任が関わりを深め、無理強いのない声掛けを繰り返し、言葉での伝え合いがスムーズになりました。
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期は保育の関わりが重要なため、保育者自身も表現豊かに関わることを心掛け、幼児期は自由に表現出来るよう常に肯定的な関わりを持つよう努めました。リトミック遊びを多く取り入れ身体的表現を自分たちで楽しみました。講師によ

	<p>るアートデーでは、幼児クラスが年3回の実施予定でしたが、コロナの影響で1回の実施となっています。内容は壁面製作などの活動を取り入れました。五感を刺激する活動を取り入れ、豊かな感性により表現する楽しさを感じることが出来ました。担任は講師との関係が深まり、密な相談もでき、自由な表現が出来るようになりました。リズムを多く取り入れたことで身体全体の感覚刺激となりました。</p>
--	---

<p>《災害時の備え》</p>	<p>・避難訓練計画に沿って毎月実施できました。実際に避難指示を想定し、日貫小学校へ避難する訓練を実施しました。協力可能な保護者に電話連絡をし、円滑に避難することが出来ました。実施後にその訓練についての気づきや反省を、職員で共有し次に繋げていきました。備蓄管理もきちんとしております。</p>
<p>《特別保育事業》</p>	<p>・子育て支援として、関係機関と協力体制をとり支援を進めてきました。個人懇談も随時行い、保護者との信頼関係を築いてきました。</p>
<p>《その他の行事》</p>	<p>・地域行事や年間の恒例行事を計画に沿って行いました。感染症拡大により、夕涼み会は保護者は参加せず、職員と子どものみで実施しました。運動会は小学校との交流は行わず、保育所単独で実施しました。また、お楽しみ会は新型コロナが少し落ちついたため祖父母も来ていただき実施しました。全体的に行事が中止、縮小となりましたが、地域の方からの誘い等、保育所を気にかけていただくことが多くありました。</p>

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1		1			
保育士	1	6(2.6)	1	6(3.2)		(+0.6)
保育補助						
調理員		2(1.1)		2(1.1)		
計	2	8(3.7)	2	8(4.3)		(+0.6)

保育士定数に不足が生じることなく業務に当たることが出来ました。

【人財育成事業】

① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	調理師	1名	・感染対策の為中止となりました。
救急法講習会	全職員	3名	・コロナ禍、全職員が受講できるよう感染対策を取りながら、2日間に分けて実施し、コロナ禍において現在行われている救急の仕方を学ぶことができました。
防犯訓練	全職員		・感染対策の為中止となりました。
年齢別（3ヶ月に1回）、主任（隔月）、調理師（4ヶ月に1回）の話し合い	担当者	2名	・各園の情報交換を行い、日々の保育の向上を図り進めてきました。また研究大会の為の食育プロジェクトも進めることが出来ました。

② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
・邑智郡保育研究会総会	全職員		・感染対策の為、書面決議となりました。
・郡保育研究会「グリーゼーンの子どもについて」（リモート研修）	全職員	2名	・子どもの立場に立った支援（感覚統合）の視点をもった関わりを行なうことで、子ども理解に繋がることを学びました。
島根県保育協議会			
・郡所長、主任研修	所長・係長		・感染対策の為、中止となりました。
・邑智郡保育研究大会（実技研修）オンライン	保育士	3名	・行事に使えるダンスや手遊びを学び、日々の保育に活用しました。
・食育推進研修会（ZOOM配信）	全職員	9名	・配信期間が長かったため、パート職員も含め全員が視聴するこ

			とができました。改めて乳幼児期の食への大切さを学ぶことができました。
・スキルアップ研修会 「子どもの言葉を育てる絵本の役わり」 (オンライン研修)	保育士	2名	・映像ではなく、絵本の良さが本来の幼児教育に繋がり、改めて自分たちの役割の重要性を感じる研修でした。
・調理師担当者研修 (リモート研修)	保育士	1名	・子どもの栄養に関する現状や、離乳食における年齢別に必要な栄養等を学びました。
・邑南町子ども健康サポートネットワーク推進研修会	所長	1名	・コロナ禍における小児の肥満と低身長との繋がりを学びました。
・石見養護学校保育士研修会 (リモート研修) 「感覚と運動からの発達について」	保育士	1名	・感覚と運動の統合が、情緒の発達を支え、子どもの発達の基盤となることを学びました。
・メンタルヘルス研修会 (ZOOM 研修)	係長	1名	・部下がストレスを抱える要因を把握し、その方法やコミュニケーションの取り方について学びました。
・リスクマネジメント研修 (ZOOM 研修)	所長	1名	・様々なリスクを想定し、日頃から起こるべきヒヤリハット等を職員間で把握し、その重要性を学ぶことができ、再確認することができました。
・施設長研修 (動画配信)	所長	1名	・危機管理や管理職の心の保ち方を学び、部下の自己否定感をより理解し、寄り添う支援の必要性を感じることができました。
・中国ブロック保育士セミナー (ICT化について)	保育士	2名	・子どもの生活とメディアの関わり方や、デジタルの有効活用を学びました。
邑南町特別支援連携協議会研修会	全職員	2名	・西部島根医療福祉センター 大野貴子医師による「発達障害の正しい理解と支援の考え方につ

			いて」学びました。
--	--	--	-----------

③ 事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長	1名 1名	・受講する毎に部下とのフィードバックミーティングに活かすことが出来ました。絶対ルールの遵守状況も良く、今後も部下へのマネジメントを実施していこうと思います。
人権・権利擁護研修	全職員	1名	・権利擁護と福祉従事者の役わりの重要性や、虐待と防止について、常に人権に携わっている中、職員の質の向上を目指し、職場環境作りに活かしました。
ハラスメント研修	全職員	2名	・ハラスメントによる正しい認識を未然に防ぐための具体的な方法を学びました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの積極的受入れ	・ボランティア受入れを実施しました。おはなし会や、わらべうたなども行いました。また、園児とともに草取りや畑作りなどを行いました。		予定通り、実施できています。

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT化の導入	・ICT化の導入によって、間接業務の時間短縮に取り組みました。登降所の時間管理や個別連絡帳の記載、身体測定の記載、保護者への全体配信や緊急連絡など行ってきました。	直接保育業務の時間増加 残業の減少	ICT化について有効活用が出来ます。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
エアコンの更新	・調理室のエアコンが老朽化しているため更新しました。
砂場の整備	・トキサンドクリーン（砂場衛生管理）を購入し、砂場の環境を整えました。
事務所用携帯購入	・外出時、非常用のための連絡用として活用しました。
写真用印刷機の更新	・保育用写真の印刷機の不調により、新しいものに更新しました。
絵本、図鑑の購入 玩具の購入	・季節や発達に合った絵本や図鑑を購入しました。また、子どもの感性や成長を育む玩具を購入しました。
コンセント増設 アースの取り付け 電灯主幹（ブレーカー取 換え） 非常用照明取換え	・コンセント不足によるたこ足配線の改善、調理オーブンレンジ、洗濯機のアースの取り付けにより安全性を確保しました。 ・漏電遮断機の取換えを行いました。 ・非常用照明は、バッテリーが更新されていないことに合わせてLEDに更新しました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	0	0
大規模修繕	0	1,747 (うち科目変更分 1,747)
その他	0	3,754 (うち科目変更分 3,368)
計	0	5,501

※科目変更のため 5,538 千円の取崩を行っております。

【感染症・災害への対応への取り組み】

- ・子ども及び職員の清潔保持に努め、アルコールや次亜塩素酸水を年間通して使用しました。また CO2 測定器や空調管理を行い、感染症予防及び拡大防止を図りました。

また幼児にはマスクの着用の依頼をし、無理のないところで安心安全に使用し生活環境を整えました。

- ・避難計画に基づき毎月避難訓練（火災、地震等）の実施を行いました。想定外の災害発生に対して職員間でマニュアルを確認し合い、非常持ち出し品や備蓄品などの確認を行いました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和4年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情1】

- ・発生日：令和4年5月18日
- ・申立者：園児の保護者より
- ・苦情内容：A職員に「クロックス（つっかけ）を履いてきてもいい」と言われたので履かせて登所させたところ、次の日には、B職員から「クロックスはかかとがなくて危険なので履いてこないでほしい」と言われた。また、別の日に、A職員に「〇〇ちゃんは、あせもが出ており、痒がるため、家に保湿剤があれば保育所で塗るので持って来てもいい」と言われたので、保湿剤を持たせたところ、B職員に「保育所では病院で処方されたもの以外は預かれないことになっている」と言われた。言われることが職員によって違うので、どの職員の言うことを信じればいいのか不安であると言われた。
- ・処理結果：職員による異なった対応のために、不安や不信感を与えてしまったことを謝罪しました。今年度は、正職1名とパート職員のための保育を行っているため、情報共有の徹底や、保護者対応も共通した認識で不安を与えないように心掛けていたにもかかわらず、職員それぞれの見解で保護者対応をしたことで、不安な気持ちにさせてしまいました。全職員で改めて保護者対応の仕方を振り返り、報連相を徹底していきます。また、総括を行なうパート職員を決めて、保護者対応をしていきます。この結果を保護者にお伝えしたところ、安心しましたと納得していただきました。
- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

【苦情2】

- ・発生日：令和4年12月2日
- ・申立者：園児の保護者より
- ・苦情内容：紙パンツの枚数が、少なくなってきたため、持って来ていただくよう、

職員が保護者をお願いしたが、持って来ていただけなかったため、繰り返しお願いをしたところ、保護者は、「分かっているのに、何度も言われることが不愉快だった」と言われた。

- ・ 処理結果：職員が紙パンツを持って来て欲しいことを、保護者に何度も催促して伝えてしまい、不愉快な気持ちにさせてしまったことを謝罪しました。日頃から保護者との信頼関係があると過信し、しつこく催促してしまい不信感を与えてしまいました。この件を踏まえ、改めて保護者対応について、馴れ合いになっていないかを全職員で振り返り、情報共有を行い周知徹底しました。保護者に対しては、口伝えで忘れられることもあった為、今後は“はいチーズ”の連絡帳システムを活用し、保護者がいつでも見ることが出来るようにしました。このことをお伝えし納得していただきました。
- ・ 第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以 上